



# 高知盲新聞



発行所  
高知県立盲学校  
高知市大膳町 6-32  
TEL 088-823-8721  
mo-s@kochinet.ed.jp

[http://www.kochin  
et.ed.jp/mo-s.html](http://www.kochinet.ed.jp)



いつもお世話になっております。盲学校です。

地域の皆様には、治療室の利用をはじめ、子どもたちが地域に出かけた際には、お声がけいただきありがとうございます。無事に二学期を終えることができましたことに心より感謝申し上げます。

## ドラマ『恋です〜ヤンキー君と白杖ガール〜』に寄せて

十月六日からRKC高知放送で放送されていたドラマ『恋です〜ヤンキー君と白杖ガール〜』はご覧になりましたでしょうか？

このドラマの制作には、横浜市立横浜盲特別支援学校が協力し、盲学校のシーンの撮影が行われ、視覚障害教育の監修と白杖の使用演技等についても行ったそうです。

また、十一月十日付「子ども高知新聞読もっか」に「白杖は友達」という記事が掲載されました。読んでくださった方もたくさんいらつしやるかと思えます。この記事を作成するにあたり、本校にも取材に来ていただきました。

この機会に、あらためて地域の皆様に「白杖」に関連して、本校で学んでいる幼児児童生徒の学びの様子をお届けしたいと思えます。

## 白杖の意義と歩行学習のねらい

一般的に、人は視覚から情報の八割以上を得ているといわれています。本校で学ぶ幼児児童生徒は、視覚以外の感覚や保有視覚のある者はそれを大切に活用し、不自由さを補う手立てを身に付けながら日々の学習に取り組んでいます。

いわゆる弱視といつて保有視覚がある者も、何らかの見えにくさを有するという共通点以外は、一人一人異なる見え方なのです。視野が狭く周囲や足元は歩きながらだと見えなかつたり、眼鏡をかけていても全体が不明瞭であつたり、まぶしさを防ぐため遮光眼鏡という見た目「サングラス」のような眼鏡や、つばのある帽子で移動時の安全を保っている者もいます。

また、白杖を持つ者、及び白杖を持つ者に対して自転車を含むすべての車両の運転者が守る事項は、道路交通法で定められています。見えにくい者だけでなく、先に述べたような弱視者も白杖を持つことで移動の安全性が高まるため、盲学校では幼児児童生徒の障害の状態や心理面での配慮をしながら、白杖による歩行学習を行っています。

ただ、盲学校の幼児児童生徒の全員が白杖による歩行を移動手段としているわけではなく、一人一人の視覚の状況と同様、移動手段にも違いがあります。

### 白杖携帯の目的は次の三つです。

#### 「安全性の確保」

白杖で一步先を確認することで物の存在や段差等を知り、安全を確保できます。

#### 「情報の入手」

舗装の有無・草地・石畳等の路面の変化、手掛かりとなる物に触れた感触や音からの情報を得ることが出来ます。

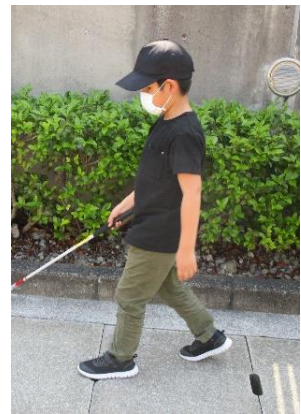
#### 「視覚障害者としてのシンボル」

ドライバーをはじめ、周囲の人たちに気づいてもらうことが出来ます。

さて、盲学校周辺で白杖歩行の練習をしている場面を見かけた方もいらつしやるかと思えます。

盲学校の歩行学習は「自分の意志で、行きたいときに、行きたい場所へ行く力をつけること」をねらいとしています。白杖を使って一人歩きすることがゴールではなく、困ったときに周囲の人に尋ねたり、手引きを依頼したりすることも大切な課題として行っています。

なく、困ったときに周囲の人に尋ねたり、手引きを依頼したりすることも大切な課題として行っています。



## 安心・安全な歩行環境は、皆様の思いやりから…

### 「お先にどうぞ」感謝しています！

信号のない横断歩道で、安全確認のため車の音の有無に耳を澄ませ、見えにくい目で目視確認している児童生徒たち。どうしても横断開始まで時間がかかってしまいます。朝の忙しい時間帯にお待たせするのは申し訳ないのですが、ここ数年、児童生徒の横断を優先してくださる車両がぐつと増えていきます。心から嬉しく、感謝申し上げます。

### 「違法駐車、駐車場枠からはみだし、点字ブロック周辺の駐輪」

白杖は万能ではないので、上半身を守ることはできません。通常ない場所に車のミラー等はみだしていた場合には腕があたつたりすることがあり、大変危険です。また、点字ブロック付近に自転車等があると白杖が当たる可能性があります。避けようとすればどうしても車道近くを歩くことになる危険性をご理解いただければと思います。

「交差点でなかなか渡るうとしないけど、いつもの子だから大丈夫よね？」

交差点の付近では、毎日通学している場所であつてもいつもと異なる状況に直面して不安や迷いを抱えている場合がります。そんなとき、「今渡つても大丈夫。」という声かけはありがたいのですが、赤信号でも横断する人もいる世の中、声かけだけで安全かどうかを児童生徒が判断するのはとても難しいのです。ほんの少し時間に余裕がある時だけかまいません、一緒に横断していただけるとありがたいです。

「一緒に渡りましょうか？」と声をかけてみてください。「お願いします。」と返事があれば、「肘をどうぞ」と手の甲同士を軽く触れ合わせ、あなたの肘を貸してください。あとは、渡り終えたことを伝えてくれるとありがたいです。

### 「交差点を渡つたのに、同じところでウロウロ…どうしたの？」

交差点を渡り終えたとき、手がかりとされている物や点字ブロックが見つからず、焦つて探しているうちに行き先がわからなくなることがあります。

「どちらへ行くところでですか？」

「何か探していますか？」

と、たずねてもらえると、

「上町1丁目の電停へ行くところですが、常通寺橋の欄干はもつと左ですか？」

「南に向かう点字ブロックを探しています、これであつてますか？」

というように、確認できるので「安心」とも助かります。

「大丈夫かな？」と感じたら、「見えないの？」「かわいそうに」でなく、かけていただきたいうれしい言葉は…

交差点の付近でなくても、じつと立ち止まっていたり、車道にはみ出そうになつていたりするときは、まず声をかけてみてください。

「何かお手伝いしましょうか？」

返事があるまで、ほんの少し時間がかかるかもしれませんが、一生懸命考える分、時間がかかるんだ…と余裕を持つ

て接していただければ幸いです。



## 高知新聞の記事から… (令和3年12月19日付)

これから広く社会にはばたいていく子どもたちにとって、足がすくむような記事が掲載されていきました。民間調査で判明したこのことですが、全国アンケートに答えた方の7割が「視覚障害につけ込んだと考えられる状況で性的被害に遭つた」という内容です。

大都市圏では、ホームドアの設置や音声ガイド付きの点字ブロック等、視覚障害者が移動しやすくなるような大掛かりな手立てが講じられつつあります。しかし、この記事を読む限り、周囲の人のほんの少しの思いやりで守ることが出来る安全もあるように思えます。あたたかい声かけやさりげない気遣い、そして適切な手引きの方法を理解していただく機会を提供できるよう、盲学校からも理解していただく努力を工夫していこうと考えています。

高知県全域の視覚障害者の安心・安全な歩行環境が、盲学校の周りから広がっていきますよう、地域の皆様にもご協力をよろしくお願いいたします。





### 2学期の様子を紹介します

#### 修学旅行に行ってきました！

今年度は、三つの修学旅行団が十月中旬から十一月初めにかけて、高知県内での修学旅行を実施しました。室戸のドルフィンセンター、四十万十市のカヌー体験など、どの団も、お天気に恵まれ、予定していた見学や活動を全て実施することができました。

コロナ禍において、各見学先や体験先、宿泊施設等で、様々な配慮や感染症対策をおこなっていただき、無事に修学旅行を終えることができました。ありがとうございます。

旅の思い出を、写真と児童生徒の作文等で伝えします。

#### 小学部



『修学旅行は、汽車に乗って四十万十市へ行きました。汽車は、乗り換えの時、高さがあって、少し怖かったです。

一日目はカヌーをしました。カヌーは最初、揺れるのが怖かったけど、途中からすごく楽しくなってきました。

ホテルのおふろは、浴槽の中で体を洗うのが初めてだったので、不思議でした。食事は食べきれないほどたくさんありました。おいしかったです。

二日目は草木染の体験をしました。ニツケイという木からできた染料で染めました。パンダを染めてきれいな色が出たのでうれしかったです。布を輪ゴムでくるのを頑張りました。

修学旅行は、先生とホテルに泊まったり、いろいろな体験をしたりできたので、すごくうれしかったです。』

#### 中学部

#### 『一日目（バームクーヘンづくり）』

一日目はバームクーヘンを作りました。竹の棒にアルミホイルを巻き付け、バームクーヘンの生地を流し込みました。二十回以上バームクーヘンの色がついてくるまで何回もくるくると回し続けました。竹の棒をとってみると大きなバームクーヘンが出来上がりました。包丁で切ってみるとまんまるのバームクーヘンができました。食べてみると、外はサクサク、中は出来たてしっとりふあふあでした。』



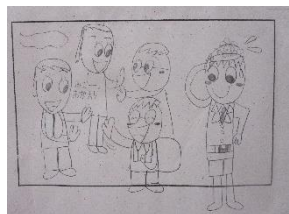
#### 『二日目（カナディアンカヌー体験）』

二日目（漕ぐもの）を先生と協力して漕ぎ、早明浦ダム湖を進んでいきました。途中の岸で白い石をとって友達に渡しました。表面に粒が浮いていてそれが水晶になるそうです。最初は心配していましたが、実際にやってみると、とても楽しかったです。』



『三日目は、帰る日になりました。学校に、着いたら、先生、家族、お友達が待っていました。修学旅行はとっても、すごく、楽しかったです。カレー作り、カヌー、ホテル、お土産など、いろいろしました。また、修学旅行に行きたいです。』

#### 佐田沈下橋



### 第6回高知県特別支援学校技能検定認定証授与式

十月十五日（金）、『第六回高知県特別支援学校技能検定認定証授与式』が高知会館で開催され、夏に実施された技能検定で一級を取得した四十人の生徒一人一人に、認定証が授与されました。本校としては、初めての一級を取得した、高等部本科普通科二年生田村瑛祐さんと、中学部二年生の高橋星風さんが、授与式に出席しました。

一人ずつ壇上上がり、認定証を受け取る姿には、緊張と誇らしい気持ちが溢れていました。授与式の最後には、田村さんが出席者を代表しての挨拶という大役を立派に成し遂げました。



### 中国・四国地区の盲学校とのオンライン交流

中国の盲学校9校では、同年代の同じ視覚障害のある友達との交流の場として、昨年度からオンライン交流に取り組んでいます。今年度も、それぞれの学部、学級で実施しています。

十二月八日（木）は、本校の小学部三年生が広島中央特別支援学校の小学部三年生との交流及び共同学習を行いました。お互いにそれぞれの県にちなんだクイズを出し合ったり、音楽の発表、学習したことの発表をしたりと、とても和やかな雰囲気の中で楽しく交流ができていました。

十二月十三日（月）には、高等部本科普通科二年生が松山盲学校の同級生との交流及び共同学習を行いました。事前に各自が考えた質問を番号で選び、それぞれが答える形で交流が進んでいました。「今、一番欲しいものは？」「コロナが収束したら一番何がしたい？」等の質問・回答に笑い声も聞かれる、和やかな交流となっていました。



### 治療室のご案内

本校の理学科では、あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師の免許（国家資格）取得に向けた職業教育を行っています。その教育活動の一環として、生徒の治療技術の向上や視覚障害教育への理解・啓発、地域の方々の健康増進に寄与することを目的に、あん摩・マッサージ・指圧、はり、灸の治療実習をおこなっています。日頃、肩こりや腰痛などでお困りの方は是非一度治療を受けてみてはいかがでしょうか。

（新型コロナウイルス感染症の状況や学校行事によっては治療室を休業することもあります。ご了承ください。）

ご希望の方は、治療室直通電話（088-824-8451）へお問い合わせください。



**あんま マッサージ 指圧、はり、きゆう**

治療実習のご案内

60分 1,000円

088-824-8451

### 地域のみなさま、ありがとうございます。

高知鏡川ライオンズクラブから新入生へのプレゼント！

高知鏡川ライオンズクラブさんから、毎年、中学部以上の新入生に時計などのプレゼントをいただいています。今年も十二月三日（金）に、贈呈式をおこなっていただきました。今年、四名の新入生は、各自が希望した音声腕時計や、音声時計、キーボード、ドラム練習パッド等を贈っていただきました。生徒からは、「部活の自練に励みたいです。」「高価なものを贈っていただき、ありがとうございます。大切にします。』等のお礼の言葉を伝えました。



高知盲新聞の配付へのご協力ありがとうございます！

本校では、地域の皆様に学校の取組や幼児児童生徒の学習の様子などを知っていただくことを目的に、高知盲新聞を年三回発行しています。その配付については、高知市枳形にある『高知新聞 川村販売所』様のご厚意により、地域の千三百世帯に高知新聞と一緒に届けていただいています。

学校の力だけでは、とてもこのように地域の多くの世帯にお配りすることができません。本当に、ありがとうございます。

